

マイクの取扱いとメンテナンスについて

デリケートな電気機器と同様、マイクも常に大切に扱うことが必要な機器です。ここでは、マイクの寿命を伸ばし、ベストな状態でお使いいただけるためのヒントをいくつかご紹介します。



- ・マイクを使用しないときは、必ず保護用のフライトケース、ポーチ、スリーブ(付属の場合)に収納してください。
- ・マイクを湿気、液体、裸火、直火、強力な光源から遠ざけ、マイクに衝撃が加わらないようにご注意ください。
- ・マイクを寒い場所から暖かい場所へ移動しないでください。マイク内部に結露が生じ、性能に悪影響を及ぼすことがあります。
- ・ボーカルを録音する際は、カプセルやリボンの寿命をのばすため、必ずポップシールドをご使用ください。
- ・マイクを接続する前にファンタム電源をオンにしないでください。マイク内部の繊細なコンポーネントにダメージを与える可能性があります。マイクのご使用後は、マイクの接続を取り外す前にファンタム電源を切ってください。
- ・真空管マイク(Aria, Mercury, Helios, Omega)、ダイナミック・マイク(Solo, Corona, Halo, Podcast Pro, STC-80)には、ファンタム電源を使用しないでください。
- ・外部電源が供給されている場合、主電源電圧セレクターがご使用の地域の正しい電圧に設定されていることをご確認ください。これを怠ると、電源やマイク(そしてあなた!)に取り返しのつかない損傷を与える可能性があります。
- ・マイクに電源やケーブルが付属している場合は、これらの付属の製品のみをご使用ください。他の製品を使用すると、損傷や感電、死亡の原因になることがあります。
- ・ご使用後のマイクのお手入れには柔らかい布を使用してください(特にボーカル録音時)。溶剤やシンナーは、マイク本体にダメージを与えるため、使用しないでください。マイクの近くでエアゾールをスプレーしないでください。
- ・いかなる場合においても、ご自身でマイクの修理を行わないでください。保証が無効になり、あなたご自身やマイクに危険が及ぶ可能性があります。マイクの修理が必要な場合には、お買い上げの販売店にご相談の上、弊社サービス・センターにお問い合わせください。

安全にご使用いただくために

- ・マイク、ケーブル、電源は、絶対に水に濡らしたり、湿った場所や濡れた場所に置かないでください。
- ・SONTRONICS 製電源をご使用になる場合は、スイッチを入れる前に必ず、使用する地域に適した動作電圧(115V または 230V)を選択してください。
- ・付属の電源ユニットを絶対に開けないでください。重大な感電事故またはそれ以上の事故につながる恐れがあります。
- ・SONTRONICS マイクにはユーザーご自身が修理できる箇所はありません。修理のご依頼は、お近くのSONTRONICS 販売店、または弊社サービス・センターにお問い合わせください。
- ・マイクまたは電源ユニットが異常な動作、ノイズ、煙、または臭いを発した場合、直ちに使用を中止し、電源から装置を取り外し、お近く販売店または弊社サービス・センターにお問い合わせください。決してご自身で原因や修理方法などを調査しないでください。



SONTRONICS マイク製品ユーザー・ガイド

本ガイドは、マイクを十分に理解し、その性能を最大限に発揮させるためのものです。マイクをご使用になる前にこのガイドを必ずよくお読みください。

SONTRONICSの製品情報につきましては、こちらのウェブサイトをご覧ください：

www.sontronics.com
www.sontronics.jp

輸入販売元

株式会社コルグ KORG Import Division
〒206-0821 東京都稲城市矢野口4015-2

この度は、SONTRONICS マイクをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。そして、SONTRONICS ファミリーへようこそ！ 新たにご購入された製品をお楽しみいただければと思います。

SONTRONICS のマイク製品はすべて、当社の創業者兼開発者である Trever Coley により、イギリスにて設計・開発されています。私たちは**長い時間をかけて情熱を注いでマイクを作り上げ**、すべての新製品は、生産に入る前にトップアーティスト、ミュージシャン、プロデューサー (Paul Epworth、Flood、Abbey Road スタジオのエンジニアを含む) とベータテストを行っています。

各回路基板は最高品質の電子部品で構成されており、**SONTRONICS マイクを末永く安心してお使いいただけます**。当社のコンデンサー・マイクのカプセルは、厚さ6マイクロン(人間の髪の毛の7倍)以下の金スバツタによるマイラーフィルムを採用し、丹念にハンドメイドで製作されています。各カプセルは、安定性を確保し、各マイクに固有の性能を持たせるため、人工的にプリエーシングされています。

当社のリボンマイクは、極限まで薄いアルミリボンと強力なレアアース・マグネットを採用し、**クラス最高の感度とオーディオ再現性を実現しています**。また、真空管マイクは、厳選されたヨーロッパ製の二重三極真空管 (Aria では 12AX7/ECC83、Mercury では 12AT7/ECC81) を採用し、オリジナル信号に過度に色付けせず、バランスの取れた周波数特性を実現する一貫性のある真空管として選ばれています。また、Mercury Vintage Edition は、在庫限りのビンテージ Mullard 真空管を使用しています。

組立工程を終えると、各マイク製品は経験豊富なエンジニアによって、専門的な実験装置を使用した数段階の品質管理テストにかけられ、一連の厳しい性能目標を満たす(そしてそれを上回る)ことを確認し、さらに防音スタジオでテストが行われます。すべての SONTRONICS マイクは、最終的な承認を得る前に、イギリス本社でも入念なチェックとテストが行われます。

この文章をお読みになる頃には、あなたのマイクは専門家による厳しいテストと愛情を込めた手入れを経て、箱から出してすぐにプロ品質のレコーディングができるようになっているのです。

マイクを理解して使用する

SONTRONICS マイクのほとんどは、メイングリル内にシングルまたはダブルのカプセルを内蔵したコンデンサー (またはキャパシタ) マイクです。音源からの音圧がカプセルに到達すると、表面の微細な薄いダイアフラムが動き、電気的な値、つまり静電容量が変化します。他のタイプのマイクよりも感度が格段に高いため、オーディオ周波数をより正確かつ安定的に再現することができます。

当社のリボンマイクは、2つのマグネットの間に吊り下げられた薄いアルミ製のストリップを内蔵し、音圧がリボンに到達すると、磁界の中でリボンの動きが信号を作り出します。リボンマイクには非常に特殊な周波数特性があり、高域の出力が少なく、周囲の周波数を補足しない(「エア感」が少ない)ため、原音に忠実でナチュラルなサウンドになります。SONTRONICS のリボンマイクには 48V 電源のプリアンプ回路が搭載されており、**従来の非電源型リボンマイクよりも感度が高らかに高く、汎用性が高く使いやすくなっています**。

SONTRONICS のコンデンサー・マイクは、特別に設計されたカプセルの恩恵を受けており、非常にスムーズな高域のロールオフを実現しています。これにより、音源(周囲の音を含む)を正確に捉え、他のコンデンサー・マイクでよく見られる高域のディザリングやデジタル領域での「フィジング」のない、非常にナチュラルなレコーディングを可能にします。

すべての SONTRONICS コンデンサーおよびリボンマイクの動作には、48V のファンタム電源が必要です。これは通常、オーディオ・インターフェイス、サウンドカード、ミキサーなどから供給され、XLR ケーブルを介してマイクに届きます。なお、当社の**真空管マイク** (Aria、Mercury) は**ファンタム電源を必要としませんが**、これは独自の電源ユニットを搭載し、特別なマルチピン・ケーブル(付属)を介してマイクに一定の電源を供給するためです。**ダイナミック・マイク** (Solo、Corona、Halo、STC-80) も**ファンタム電源は不要**です。

各指向性の特徴について

指向性とは、マイクが周囲の 360° の空間でどのように音を拾うかを表すもので、通常は 2D (2次元) の図で示されます(右図参照)。SONTRONICS のマイクで最もよく見られる指向性は、無指向性、カーディオイド(単一指向性)、双指向性です。

無指向性は、あらゆる方向から均等に音を拾います(マイクのヘッドを中心とした球体をイメージしてください)。演奏家や歌手のグループ録音、オーケストラや合唱の録音、また、録音スペースや部屋の雰囲気をつめるのに便利です。

カーディオイド(単一指向性)は、前面の広い空間で音を拾い、側面からの音を段階的に排除し、背面からの入力はほとんどありません。2D ダイアフラムで示すと、この收音レスポンスがハート型に見えるため、「カーディオイド」(心臓形)と呼ばれています。このタイプのマイクは「音圧勾配型」マイクとも呼ばれ、ソロ楽器(アコースティックギター、木管楽器、金管楽器など)、トークや歌唱、ピアノ、ドラム、パーカッションなどのレコーディングに便利です。

双指向性は、マイクの前面と背面から均等に音を拾います。シングルタイプの双極性マイクは、ボーカルやアコースティック楽器の音を非常に忠実に再現することができ、軸外位置からの音やノイズの除去が重要なステレオ・レコーディングの用途にも最適です。また、カーディオイド・マイクと組み合わせてミッドサイドのテクニックに使用することもできます。

ハイパーカーディオイドは、カーディオイドと双指向性を組み合わせて作られます。マイクの後方から来る音や反射音に対する感度が低い一方で、全体的に良好な除去と、よりフラットな周波数特性が特徴です。**サブカーディオイド**は、無指向性とカーディオイドの中間に位置し、優れた軸外阻止を維持しながら近接効果(下記参照)のレベルを低減します。

近接効果

カーディオイドのマイクを音源に近づけると(またはその逆)、低音域のレスポンスが増加します。これは「近接効果」として知られています。ボーカルのレコーディングでは、声の小さいシンガーがマイクに近づくことで、**より深みがあり、より迫力あるサウンド**を得ることができます。近接効果が強すぎても、マイクのポジションを変更したくない場合、SONTRONICS のほとんどのマイクには、音質を補正するためのローカットフィルター(下記参照)が内蔵されています。

フィルターとパッド・スイッチ

音源の特性は千差万別ですので、音源をつめる方法も多種多様です。SONTRONICS のマイクを可能な限り汎用性の高いものにし、常に最高のレコーディングができるよう、一部のマイクにはフィルターやアッテネーション(パッド)スイッチを装備しています。

ローカットフィルターは、マイクが捉えた**低周波数の出力を低減**します。先に触れましたように、これは近接効果が不要な場合や、振動や速く交通などのノイズなどによる低周波音を消してしまう場合に特に有効です。また、音源が低域をほとんど、あるいはまったく出力していない場合にも非常に有効です。この場合、フィルターを切り替えることで不要なノイズを抑えながら、録音に明瞭度を加えることができます。

パッド・スイッチは、**マイクの感度を数デシベル**(通常は -10dB または -20dB) **減衰させるために使用**します。これは、大音量の音源(例えば、マイクに向かって直接演奏されるトランペットなど)を録音する際に非常に有効です。このような音源は、感度の高い内部電子回路をオーバーロードさせ、不快な歪みを引き起こす可能性があります。このような場合、パッドをオンにすることで、マイクが捉える音のレベルを下げつつも、楽器の特性を忠実に拾うことができます。

